

令和7年度 四国地方整備局 インフラDX推進本部会議

審議事項

令和8年3月4日(水)



SHIKOKU
INFRA
DIGITAL
TRANSFORMATION

四国として進めるインフラDXの方向性

令和3年8月24日

令和3年度 第1回 四国インフラDX本部会議 より

「働き方改革」⇒「担い手確保」⇒「事業継続維持」のために！

を進め

につなげ

を果たす

技術力の底上げをサポートし、ICT技術活用の裾野・建設業界を目指す人材の裾野を広げる

四国として進めるインフラDXの3つの方向性

令和4年3月15日

令和3年度 第2回 四国インフラDX本部会議 より

- ★ 地域建設業 担い手確保 (ICT技術を活用した生産性向上、働き方改革)
- ★ 行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革
- ★ 四国地方整備局 職員の働き方改革 (デジタル技術を活用した業務の効率化・高度化)

【審議事項】

令和8年度の方針 働き方改革を進め 担い手確保に向けDXの実践を継続

官民双方の生産性向上・働き方改革等の取り組みを推進するため

- ・各部会のロードマップを着実に実行し、スピード感を持って結果につなげ効果を把握
- ・デジタル技術の「普段使い」を目指し、地域建設業者へ新技術活用の底上げを積極的に支援
- ・職員向けのAIを含めたDXの更なる推進のため、各部・各事務所で実践し好事例を展開
- ・事務所も含め推進体制による業務改善の一層の推進

令和8年度の重点取り組み

令和7年度

【審議事項】

令和7年度は働き方改革を進め 担い手確保に向けDX実践

- 官民双方の生産性向上・働き方改革等の取り組みを推進するため
- 各部会のロードマップを着実に実行し、スピード感を持って結果につなげる効果把握
- デジタル技術の「普段使い」を目指し、業界&職員各々で実践し技術や好事例をシェア
- 職員向けのDXの更なる推進のため、各部会で実践するとともに好事例をシェア
- 事務所も含め推進体制を強化し、事務所マネジメントにDX技術を活用

令和7年度の重点取り組み

テーマ1：「地域建設業の担い手確保」

- 1-Construction 2.0等の実践**
 - 施工現場のオートメーション化、省人化に向けi-Con2.0やStage II進める必要
 - 根本的な生産性向上を実現するため、大規模な土工の現場において、ICT施工Stage II推進の工事に取組む
- 2. BIM/CIM活用の実践**
 - 令和7年度に引継ぎ活用が始まり、業務・工事とも活用が増えているが、活用効果の発揮には、活用シーンの拡大・職員が日常的に触れる機会が必要
 - 令和7年度は、設計説明会、現場見学会、3者会議開催などの場でも活用を推進する
- 3. 「見える（触れる）現場」の設定**
 - ICTやBIM/CIMなどは工事・業務最終での活用が多く、実業のデータ連携に活用が広がらない
 - ICT/i-ConやBIM/CIMを集中的に取り組む事業・工区（地区）を各事務所等で設定し、データ連携の効果を生み出す
 - 見学会や体験会等を通じ、対外的に見せて行く

以上を各部会で取り組む。

テーマ2：「行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革」

国土交通省のデジタル化計画（1/2）

項目	進捗状況	備考
国土交通省のデジタル化計画（1/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（2/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（3/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（4/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（5/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（6/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（7/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（8/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（9/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（10/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（11/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（12/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（13/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（14/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（15/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（16/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（17/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（18/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（19/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（20/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（21/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（22/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（23/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（24/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（25/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（26/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（27/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（28/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（29/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（30/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（31/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（32/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（33/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（34/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（35/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（36/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（37/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（38/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（39/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（40/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（41/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（42/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（43/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（44/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（45/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（46/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（47/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（48/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（49/2）	○	
国土交通省のデジタル化計画（50/2）	○	

テーマ3：「四国地方整備局職員の働き方改革」

- ① 事務所マネジメントへのDX活用**
 - 各事務所の課題を抽出して事務所マネジメントにDX技術を活用
 - 事業の発注～完成、維持管理、開通に向けた関係部署間のマネジメント等
 - 時間軸に応じた課題を見える化、情報共有、フロントローディングにより、手戻り・遅延・弊害を抑制したマネジメントを実現
 - 職員（事務・技術）、受発注者等関係者との連携を促進
 - 実践した結果の取りまとめ・評価を通じ横展開を図る
- ② 業務の取捨選択とデジタルツールの積極的活用**
 - DX推進体制の強化
 - 各部会・事務所にDXマネジメント者、推進リーダーを配置しDX推進体制を強化
 - 「マネジメント者」による真に行うべき業務の取捨選択
 - 「推進リーダー」を中心に、DXの一層の活用・実践により職員の働き方改革を更に推進
 - DXの普段使いの実践
 - Teams、Forms等の普段使い（効率化ツールや個別テクニックの展開を継続）
 - 好事例の横展開（勉強会、セッション等の開催継続：定期的開催）

令和7年度の取り組み結果と考察

- 「重点的」に取り組むもの
- 「重点」から外し引き続き取り組みを継続するもの

テーマ1 1. ① ICT施工Stage II 【実績6件】（P7、8）
引き続き大規模な土工の現場で取り組む

土工数量が概ね20,000m³以上の工事を対象として、新技術における発注者指定型（選択肢提示型）で原則発注する

テーマ1 2. ① BIM/CIM活用の実践 【9事務所46件活用】（P9、10）
3次元モデルを活用した設計説明会や現場見学会は浸透してきているため、「重点」から外し引き続き取り組みを継続する

テーマ1 3. ① 工区を設定した取り組み 【5事務所】（P11）
引き続き、ICT/i-ConやBIM/CIMを集中的に取り組む工区の設定を増やし、BIM/CIMデータの活用取組事例を横展開していく

テーマ1 3. ② 多くの見学会、体験会、設計説明会が開催されているため、「重点」から外し引き続き取り組みを継続する

【新規】地域建設業者のDXが進んでいないことから、積極的に地域建設業者へDXの好事例を展開していくことが重要
インフラDX省人化モデル工事、研修・講習会、インフラDX人材育成センター活用などに取り組む

テーマ2 行政手続きのデジタル化やデータ公開が進んでいるため、「重点」から外し引き続き取り組みを継続する

テーマ3 ① 事務所マネジメントへのDX活用
各事業の課題や進捗状況の情報共有や各課を跨がる調整など、身近で出来ることから取り組むこととする

テーマ3 ② DX推進体制の強化
令和7年度は各部会・各事務所に「DXマネジメント者」と「DX推進リーダー」を配置しDX推進体制を強化。今後は体制を基にして業務改善を推進する

テーマ3 ② DXの普段使いの実践
TeamsやForms等の普段使いや、好事例の横展開（勉強会、セッション等）を行ってきたところ。取り組み継続の声も多く継続する
また、生成AIを活用できる環境が整いつつある

令和8年度

【審議事項】

令和8年度 働き方改革を進め 担い手確保に向けDXの実践を継続

- 官民双方の生産性向上・働き方改革等の取り組みを推進するため
- 各部会のロードマップを着実に実行し、スピード感を持って結果につなげる効果把握
- デジタル技術の「普段使い」を目指し、地域建設業者へ新技術活用の底上げを積極的に支援
- 職員向けのAIを含めたDXの更なる推進のため、各部会・各事務所でも実践し好事例を展開
- 事務所も含め推進体制による業務改善の一層の推進

令和8年度の重点取り組み

「地域建設業の担い手確保」

- 生産性の向上（デジタル技術の活用促進）
- i-Construction 2.0、ICT施工Stage IIの実践
 - 施工現場のオートメーション化、省人化に向けi-Con2.0やStage IIを進める
 - 大規模な土工の現場において、ICT施工Stage II相当の工事に取り組む
 - ICT、BIM/CIMデータ活用の実践
 - ICT、BIM/CIMデータ活用の取り組み事例を展開する
 - ICT/i-ConやBIM/CIMの先進的な取り組みを推進するとともに、積極活用する事業（工区、地区）を各事務所等で設定し、その取り組み事例を展開する
 - 地域建設業者へのDXの展開
 - 地域の担い手・守り手である地域建設業の事業継続維持に向け、DXの取り組み好事例を展開する
 - インフラDX省人化モデル工事、研修・講習会、インフラDX人材育成センター活用などに取り組む

「行政手続きや暮らしにおけるサービスの改革」

※「重点」から外し引き続き取り組みを継続する

「四国地方整備局職員の働き方改革」

- 働き方改革
- 事務所マネジメントへのDX 【各部・各事務所】
 - 各事業の課題や進捗状況を事務所内で共有するために、DXによる事業マネジメントを実施
 - Ex) 職員（事務・技術）、受発注者間など関係者を横断した工程、進捗、懸案などのデータ共有へのDXなど簡単なところから始める
 - 業務の取捨選択とデジタルツールの積極的活用 【各部・各事務所】
 - DX推進体制による業務改善の一層の推進
 - 「推進リーダー」を中心に、DXの一層の活用・実践により職員の働き方改革を継続
 - 「推進リーダー」等からの相談を受け「マネジメント者」による真に行うべき業務の取捨選択を継続
 - デジタルツールの積極的活用
 - Teams、Forms等の普段使いの実践を継続（効率化ツールや個別テクニックの展開を継続）
 - 生成AIの活用、CXとの連携など
 - 好事例の横展開
 - 勉強会、セッション等の開催を継続
 - 各部会、各事務所でも取り組んだ好事例を展開

「地域建設業の担い手確保」

生産性の向上（デジタル技術の活用促進）

1. i-Construction2.0、ICT施工Stage IIの実践

- 施工現場のオートメーション化、省人化に向けi-Con2.0やStage IIを進める
 - ・ 大規模な土工の現場において、ICT施工Stage II 相当の工事に取り組む

2. ICT、BIM/CIMデータ活用の実践

- ICT、BIM/CIMデータ活用の取り組み事例を展開する
 - ・ 「調査設計・施工・維持管理」の各段階で、ICT/ i-ConやBIM/CIMの先進的な取り組みを推進するとともに積極活用する事業（工区、地区）を各事務所等で設定し、その取り組み事例を展開する

3. 地域建設業へのDXの展開

- 地域の担い手・守り手である地域建設業の事業継続維持に向け、DXの取り組み好事例を展開する
 - ・ インフラDX省人化モデル工事、研修・講習会、インフラDX人材育成センター活用などに取り組む
 - ・ 地域建設業が主に担っている維持管理作業について、積極的にDXの事例を展開する

「四国地方整備局職員の働き方改革」

業務の効率化

1. 事務所マネジメントへのDX 【各部・各事務所】

●DXによる事業マネジメントを実施

- ・各事業の課題や進捗状況を事務所内で共有するために、職員（事務・技術）、受発注者間など関係者を横断した工程、進捗、懸案などのデータ共有へのDXなど簡単なところから始める

2. 業務の取捨選択とデジタルツールの積極的活用 【各部・各事務所】

①DX推進体制による業務改善の一層の推進

- ・「推進リーダー」を中心に、DXの一層の活用・実践により職員の働き方改革を継続
- ・「推進リーダー」等からの相談を受け「マネジメント者」による真に行うべき業務の取捨選択を継続

②デジタルツールの積極的活用

- ・Teams、Forms等の普段使いの実践を継続（効率化ツールや個別テクニックの展開を継続）
- ・生成AIの活用、CXとの連携など

③好事例の横展開

- ・勉強会、セッション等の開催を継続
- ・各部会、各事務所で取り組んだ好事例を展開



**SHIKOKU
INFRA
DIGITAL
TRANSFORMATION**

○「ICTの全面的な活用」の取組みの更なる促進を図るべく、土工数量が概ね20,000m³以上の工事を対象として、新技術における発注者指定型(選択肢提示型)で発注することを原則としています。

■事務連絡(R7.4.21)

事務連絡
令和7年4月21日

局内関係各課長 殿
各事務(管理)所長 殿

企画部 技術管理課長
企画部 施工企画課長

大規模土工における「ICT 施工 Stage II」の取組みについて

i-Construction における「ICTの全面的な活用」の取組みの更なる促進を図るべく、下記のとおり、大規模な土工の現場(土工 20,000m³ を目安)においては、新技術における発注者指定型(選択肢提示型)で発注することを原則とする。

記

1. 実施対象
土木工事共通仕様書に基づく土木工事のうち、土工数量が概ね 20,000m³ 以上の工事を対象とする。(20,000m³ 未満の工事について実施を妨げるものではない)
なお現場条件等によっては、通信環境が整わない現場や導入の効果が非効率になる等、生産性が向上しない恐れのある場合は対象としない。
2. 実施時期
令和7年7月1日以降で入札契約手続きを開始する工事より実施
3. 特記仕様書記載例
別紙のとおり
4. 問合せ先
企画部 施工企画課 課長補佐 (88-3453)

■新技術リスト(ICT施工Stage II 相当の新技術)

No.	NETIS 登録番号	技術名称	分類
1	KT-190101-VE	SMART CONSTRUCTION Fleet	②
2	KT-230198-A	車両運行管理システム「スマートG-Safe」	①
3	KT-220025-A	運搬情報管理システム it-Trucks	②
4	QS-210052-A	建設生産プロセス改善のためのIoTオープンプラットフォーム「ランドログプラットフォーム」	①
5	QS-180035-VE	トラック安全運行サポートシステム	②
6	QS-210043-A	工事車両運行管理システム	②
7	KK-220047-A	ダンプ手配・運行管理システム「DANPOO(ダンプー)」	②
8	QS-230017-VE	工事車両安全運行支援・運行管理システム「D-safety」	②
9	KT-230152-A	車両搭載型安全監視カメラシステム「カワセミ」	④
10	KT-190130-VE	スマートフォン等のモバイル端末を活用したIoT施工ソリューション「Solution Linkage Mobile」	②
11	QS-210020-A	クラウドを用いたICT重機管理システム「MC1 iRoller」	②
12	QS-200030-A	クラウド型安全支援システム(セーフティリマインダー)	④
13	CG-200009-VE	ヒヤリハンター(接近検知警報システム)	④
14	QS-160016-VE	工事用車両運行支援システム「VasMap」	②
15	KT-150096-VE	SMART CONSTRUCTION Dashboardによる出来高・出来形管理システム	③

分類:①施工段取りの最適化、②ボトルネック把握・改善、③進捗状況把握による予実管理、④その他(注意喚起・教育等)

R7重点取り組み実施状況 ICT施工Stage IIの実施状況(四国)

○令和7年度は、6件の工事において、施工データの活用(ICT施工stage II)の取組を実施。
(令和8年2月末時点)

■令和7年度 施工データの活用(ICT施工stage II) 工事一覧表(四国)

事務所	工事名	工期		活用した新技術		技術名称
		(自)	(至)			
香川河川国道事務所	令和6-7年度 大内白鳥BP土居改良工事	R7.4.10	R8.3.31	1	KT-190101-VE	SMART CONSTRUCTION Fleet
大洲河川国道事務所	令和6-7年度 肱川河道掘削(その2)工事	R7.4.1	R8.2.28	1	KT-190101-VE	SMART CONSTRUCTION Fleet
高知河川国道事務所	令和6-7年度 仁淀川用石地区河道掘削外工事	R7.4.1	R7.11.28	10	KT-190130-VE	スマートフォン等のモバイル端末を活用したIoT施工ソリューション「Solution Linkage Mobile」
高知河川国道事務所	令和6-7年度 仁淀川右岸下流河道掘削工事	R7.4.1	R8.1.30	8	QS-230017-VE	工事車両安全運行支援・運行管理システム「D-safety」
高知河川国道事務所	令和6-7年度 物部川下ノ村地区河道掘削外工事	R7.4.1	R8.1.30	1	KT-190101-VE	SMART CONSTRUCTION Fleet
土佐国道事務所	令和6-7年度 南国安芸道路穴内東地区改良第7工事	R7.4	R8.3	1	KT-190101-VE	SMART CONSTRUCTION Fleet

※.R7.4.22発出【事務連絡】「大規模土工における「ICT施工Stage II」の取組みについて」は、令和7年7月1日以降、入札契約手続きを開始する工事より実施

	時期	内容	備考(参加者等)
徳島	R7.8.4	宮岡地元説明会で事業概要説明に3次元モデルを活用	徳島河川国道事務所、東みよし町、地権者等 約50名
	R7.10.2	本局ヒアリングで事業概要説明に3次元モデルを活用	本局、徳島河川国道事務所 約50名
	R7.9.25	PC建協主催の阿南高専見学会にて工事概要説明を実施	阿南高専の学生と引率教諭
	R7.12.3	PC建協主催の徳島大学見学会にて工事概要説明を実施	徳島大学の学生と引率教諭
	R8.2.21	小松島南IC～阿南IC開通イベントにて工事概要説明を実施予定	
砂防	R8.2～R8.3	地元説明において3次元モデルを用いて事業概要を説明予定	事業対策官ほか2名
香川	R7.4～(継続中)	関係者(学識者、自治体、水利組合への説明において、3次元モデルを用いて事業概要、構造等の説明を実施	工務第一課長ほか5名
	R7.4～(継続中)	関係者(自治体、交通管理者、占用者、地権者への説明において、3次元モデルを用いて事業概要、構造等の説明を実施	工務第一課長ほか5名
	R8.1	地元説明会において、3次元モデルを用いて事業概要の説明を実施	副所長(河川)ほか6名、計2回開催し延べ88名が参加
	R7.5.22	入契委員会において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施	事務所長ほか7名
	R7.12.18	入契委員会において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施	事務所長ほか7名
	R7.4.10	R7技術職員研修にて現場説明を実施	職員40名程度
	R7.5.30	CIM作成データにより埋設物と施工する構造物との位置説明に利用	総括打合せ
	R7.6.17	設計積算技術研修において3次元モデルを用いて現場説明を実施	建設専門官ほか20名程度
	R7.7.18	四国地方整備局リクルート関係の現場見学会を3次元モデルにて実施	工務第二課職員ほか4名程度
	R7.9.12	全日本建設技術協会の現場研修にて3次元モデルを用いて現場説明を実施	副長ほか164名
	R7.10.29	若手電気通信職員との情報交換会にて3次元モデルを用いて現場説明を実施	防災課課長ほか14名
	R7.12.8	会計検査4課課長の現場視察にて3次元モデルを用いて現場説明を実施	副長、建設専門官ほか2名
	R7.4.24	地元説明において3次元モデル(タブレット端末)を用いて工事概要説明を実施	主任監督員ほか6名
	R7.5.21	地元説明において3次元モデル(タブレット端末)を用いて工事概要説明を実施	地権者ほか7名
	R7.10.6	地元説明において3次元モデル(タブレット端末)を用いて工事概要説明を実施	本山小学校校長ほか5名
	R7.7.24	現場見学会においてモバイルスキャナーを用いて作業概要説明を実施	道路部道路工事課ほか30名
	R7.11.20	現場見学において、ARによる施工予定構造物確認とLiDAR用いた現況測量体験を実施。	インフラDX研修(研修生、聴講員23名)

	時期	内容	備考(参加者等)
松山	R7.6.11	愛媛県との占用協議において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施(南吉田ONランプ橋)	中予地方局4名、松山詰所3名、愛橋1名
	R7.10.8	警察との道路使用許可申請において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施(南吉田第3高架橋)	松山西警察署1名、松山詰所3名、アルス製作所1名
	R7.10.16	橋梁架設工事の通行止め記者発表に先立ち、3次元モデルを用いて架設計画を共有(南吉田第3高架橋)	工務第二課4名、松山詰所3名、アルス製作所3名
	R7.10.20	道路部技術力向上プログラムの見学会において3次元モデルを用いた現場体験を実施(別名第3高架橋)	四国地方整備局職員21名、技術員7名
	R7.10.23	愛媛県との占用協議において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施(南吉田第3高架橋)	中予地方局1名、松山詰所2名、アルス製作所1名
	R7.12.8	愛媛県立西条農業高等学校の工事現場見学会において3次元モデルを用いた現場体験を実施(別名第3高架橋)	愛媛県立西条農業高等学校生徒14名
	R8.1.26	道路部技術力向上プログラムの見学会において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施(南吉田第3高架橋)	工務第二課、松山詰所、アルス製作所、四国地方整備局職員・技術員
大洲	R7.8.27	愛南町長へ3次元モデルを用いて事業説明を実施	計画課長ほか1名
山鳥坂	R7.5	ダム本体の入契委員会において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施	本局で実施
高知	R7.1.17	事業計画審査会において、3次元モデルで作成した動画を用いて設計概要説明を実施	副所長ほか7名、四国地整12名
	R7.3.7	地権者説明会において、3次元モデルを用いて事業概要説明を実施	用地課長ほか7名、市職員2名、権利者15名
	R7.12.12	地元説明会において、3次元モデルを補足説明資料として準備。	課長他2名、市職員3名、民間10名
土佐	R7.6.3	令和6-7年度 横山谷橋詳細設計業務の合同現地踏査にて3次元モデルを用いて設計確認を実施	WEB:調査課長ほか4名 現地:PPPほか約10名
	R7.9.30	野根安倉道路 野根1-2工区現地説明会 3次元モデルを用いて現地状況及び設計概要説明を実施	調査課係長ほか約15名
	R7.12.17	野根安倉道路設計説明会において3次元モデルを用いて設計概要説明を実施	調査課長ほか約15名
	R7.12.25	国土技術政策総合研究所・土木研究所の現地確認時に、3次元モデルを用いて説明	国土技術政策総合研究所 構造・基礎研究室長ほか 2名 国立研究開発法人土木研究所 上席研究員ほか6名 四国地方整備局 道路部長ほか 約8名
	R8.2.3~2.5	奈半利安芸道路設計説明会において3次元モデルを用いて設計概要説明を実施	調査課長ほか約10名
	R7.9.2	令和7-9年度 南国安芸道路穴内第2橋下部P1(上り)工事の技術審査会(第1回)において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施	技術開発調整官ほか8名
	R7.9.17	令和7-9年度 安芸道路黒鳥高架橋上部A1-P2工事 外2件の技術審査会(第1回)において3次元モデルを用いて工事概要説明を実施	技術開発調整官ほか8名
	R7.4.18	令和5-6年度 南国安芸道路赤野高架橋P9-P12上部工事の完成見学会を開催し、3次元モデルのVR体験を実施	参加人数:144名
	R7.8.6	令和5-6年度 南国安芸道路赤野高架橋P12-P15上部工事の現場見学会を開催し、3次元モデルのAR体験を実施	参加人数:高校生14名
	R7.12.16 R7.12.18 R7.12.22	令和7年度 南国安芸道路和食西地区改良外A2工事と令和5-6年度 南国安芸道路赤野高架橋P12-P15上部工事の現場見学会(計3日間)を開催し、3次元モデルのAR体験を実施	R7.12.16 高校生17名参加 R7.12.18 高校生40名参加 R7.12.22 高校生40名参加
脇統	R5.11~現在まで	見学者ステージ・展望台の設置 モニターカメラによる定点動画撮影(SNSでのLive配信) デジタルサイネージ用モニターでの事業紹介	継続中

事務所名	事業名・工区	データ連携実施状況	見学会・体験会等実施状況
徳島	四国横断自動車道 (津田大橋、大原地区)	設計で作成した上部工3次元モデルを工事における施工計画で活用。 土工3次元モデルを工事におけるICT土工に使用。	R8d以降 現場見学会、地元説明会に使用
那賀川	南海トラフ巨大地震等対策 (派川那賀川(桑野川)右岸 原ヶ崎地区)	デジタルサイネージの設置や現場独自のHP (Youtube配信) により、3次元モデルの施工ステップや現場のWEBカメラによる映像をリアルタイムで上映し、建設現場の見える化を実施。	R7.6～R8.3 (10ヶ月) デジタルサイネージ設置 工事内容の紹介、ライブ映像を公開 R7.7～R8.2 (8ヶ月) ホームページ作成 工事内容の紹介、ライブ映像を公開
香川	国道11号大内白鳥バイパス (1工区)	詳細設計で作成した3次元モデルを工事(土工ICT施工)で活用	
松山	今治道路 (今治朝倉IC建設工区)	ICT土工の施工において運行管理システム及び施工管理のDXを活用	R8.1.16 インフラDX省人化モデル工事 現場見学会 R8.1.17 建設DX参観日in今治&松山
土佐	南国安芸道路 (5-6工区)	ICT施工Stage II と遠隔施工を実施	R7.11.18 ICT 施工Stage II と遠隔施工の 現場見学会を開催(地元小学生10人)

